



環境 (E) 社会 (S) ガバナンス (G) 開示の基本

東京証券取引所は先月11日、4月4日に発足する「プライム」市場には、現行の東証1部の84%となる1,841社が上場すると発表した。そして、「ESG関連でどのように情報開示すべきか知識・ノウハウがない」、「ESGがどれだけ企業価値に貢献するか示せない」、「ESG関連の開示基準が乱立している」などがプライム市場に上場し、それを維持することを意図している企業の懸念事項上位であるとメディア報道もあった。これらの懸念事項は、企業経営者やIR責任部署から最近私たちに寄せられる懸念事項と一致している。今までも本研究員コラムにおいてESG関連の開示に関して多くの説明を行って来たし、経営者やIR責任部署の方々にも個別に説明したが、もう少し具体的な考え方をここで平易に示す必要があると感じた。今回の読み手はプライム市場に上場維持したいが、今までIRについてあまり多くの時間、人員、コストをかけてこなかった企業、特にESG関連開示に関して全くアイデアが無いという事業会社の経営者を想定しており、その内容は昨年何年度かプライム市場上場予定企業の経営者の方々に対して行った勉強会で「な～んだ、これだったら出来そうだ！」と勉強会後におっしゃっていたものなので肩の力を抜いて気軽に読んでいただきたい。

市場参加者のルール 5つの前提

1. 企業価値を向上させること、これが、株主が経営者に求めている原則である。
2. 企業価値とは時価総額に純負債総額を足したものである。或いは、将来のキャッシュフローの総和を現在価値に割引いたものでありこれらは一致する。
3. 時価総額は株価と発行済み株式総数の掛け算

文責：ESG/統合報告研究室 主席研究員 小谷 正彰

求められ、株価は常に正しい。

4. キャッシュフローはEBITDA（利払い前・税引き前・減価償却前利益：Earnings before Interest, Taxes, Depreciation and Amortization）を意味する。
5. 企業価値算定で利用する将来キャッシュフロー総和の割引率が資本コストである。これは、期待収益率とも呼ばれることから明らかなように投資家が企業に投資をして期待するリターンである。

筆者は学者ではない。従って、この5つの前提が正しいかどうかの神学論争をするつもりはない。サッカーをする際にオフサイドはルールでダメであるのと同じレベルの市場参加者のルールとして企業がIRを行う際に認識すべき5つの前提である。これらはIRの基本であり、「企業経営者は企業価値を向上させることが求められ、そのためには株価を上昇させることが重要である。そして、その株価は常に正しく、仮に経営者が自社の株価が安いと感じるのであれば、それは経営者が持つ企業情報と投資家が知りえる企業情報に差がある。つまり情報の非対称性を解消する必要がある。この解消のために必要な情報に、財務情報と共にESGを含む非財務情報がある。」という考え方をしっかりと理解しておくことをお勧めする。

ESG関連開示はなぜ重要なのか

G、つまりガバナンスが重要である点についてはここ20年くらいでかなり理解が進んでいると捉えられ、GはE（環境）やS（社会）を支える屋台骨でもある。従って、ここではEとSについて念頭に説明したい。環境や社会といった課題

に対して、企業はリスクと機会という二つの側面から企業価値への影響を考慮した開示が求められる。つまり、環境や社会と言った課題によって企業価値が毀損する「リスク」と、環境や社会といった課題に対して企業がもつ製品やサービスが貢献しキャッシュフローが増大する「機会」といった見方である。気候変動という社会的な課題の場合、「リスク」は気候変動に伴う社会的な動き、例えば炭素税の導入や、実際の気候変動が要因となる洪水による工場浸水等によって企業価値の毀損することが「リスク」であり、気候変動によって取り組みが強化されるであろう省エネルギーや省資源によるコスト低減のための製品やサービスによるキャッシュ創出が「機会」である。後者の「機会」としての開示は投資家に対するアピールにもつながるために比較的多くの企業が前向きに対応している。一方で、今回のESG関連開示で求められているポイントは企業価値を毀損する「リスク」の側面である。上場企業が開示している有価証券報告書の「事業等のリスク」においても企業の持つリスク情報の開示が求められている。しかし、そこに投資家が本当に必要としている情報があるかどうかは問題である。ここではEとSの企業価値毀損リスクとして具体的な事象で理解を深めたい。

まず、E（環境）で最近問題意識が高いのはTCFD提言もあり気候変動関連開示であろう。気候変動関連では大きく分けて移行リスクと物理的リスクの二つに分類される。移行リスクとは、炭素税の導入や気候変動に絡む規制や法律の改正によって企業価値が毀損するリスクである。一方、物理的リスクとは、企業が受ける気候変動によって生じる物理的な悪影響と考えてもらって間違いない。双方どの企業にとっても重要だが、移行リスクはコントロールできない外部要因によって決まるため想定しづらいが、物理的なリスクは企業が独自に想定できる。ここでは物理的なリスクを参考事例として考えて見よう。企業が営業を営む

上で、本社機能が必要であり、製造業であれば生産拠点が必要であり、販売業であれば販売拠点が必要である。日本は地震国家でもあるので比較的多くの企業が震災リスクを考慮したBCPで、本社機能やデータセンターを分散する行為が物理的リスクへの対応の代表で比較的わかりやすい。地震以外のリスクとして、自社や自社のサプライチェーンの生産拠点や販売拠点がハザードマップにある洪水リスクに瀕している場所はあるだろうか？もし、存在するのであれば、それらの拠点が昨今増えている大型台風や線状降水帯の発生によって浸水するリスクによる拠点の物理的被害額を想定することが求められる。或いは、生産拠点であればサプライチェーンの毀損によって発生する売上減などの金額の想定、そしてそれらを将来的に移転する計画などがあるのであればその事例やその投資金額などが正に投資家が知っておきたいリスクである。

次に、S（社会）には、人権、従業員の健康、労働環境への配慮、取引先との公正・適切な取引、人材の多様性確保など、「人」に関するものだ。ここでは人材の多様性について事例を見てみたい。グローバルには人種の多様性に起因する多様性の議論が多いが、日本企業の場合、多様性というのは「人権」や「雇用機会均等法」と言った多様性ありきの制度の中で議論されがちである。しかし、日本企業に投資する際のグローバルな投資家の視点としては、「日本では少子化に起因する生産年齢人口減少」からの労働力不足による企業価値毀損リスクに対処するための多様性と認識すべきである。それは、上場企業のみならず、その企業が生産のために必要としているサプライチェーンにおける人材不足に対してどのようなリスクがあり、どのように対処しているのかまで含める必要がある。例えば、男性社員への依存が高すぎると労働力不足になる可能性があるため、女性登用は必須であり、生産技術の伝承のためのシニア社員の

登用も必須であり、或いは海外オペレーションの安定化のための外国人幹部社員の登用も必須となっている。さらには、サプライチェーンに組み込まれている中小企業納入業者の事業継承問題にどのように対応していくのか。これらの問題を企業毎に具体的に抽出していくことが重要である。このような自社及び自社のサプライチェーンにおけるリスクに対する対応、例えば女性社員の定着率アップのための様々な環境整備及びそれにかかるコストや、シニア社員活用のための定年の引き上げなど様々なリスクとそれに対する対応策、加えてコスト等の議論及び指標設定とその開示があげられる。

重要なのは大上段に振りかぶった議論ではなく、より具体的なリスクを全社的に抽出し、その対応策やかかる時間やコストを併せて議論して開示することが重要である。

コーポレートガバナンス・コードは特殊な要求か？

金融庁及び日本取引所が事務局を務める「スチュワードシップ・コード及びコーポレートガバナンス・コードのフォローアップ会議」からの提言を踏まえ昨年6月11日に発表された改訂コーポレートガバナンス・コード（以下CGC）はメディアでも大きく取り上げられ「人権や気候変動といった国際的な課題への対応も促す」としてESGの要素をコーポレート・ガバナンス報告書（以下、CG報告書）に反映するように求められた。改訂されたCGCが求めるESG開示のEとSの該当部分5点のオリジナルを見てみたい。

● 基本原則2

「持続可能な開発目標」（SDGs）が国連サミットで採択され、気候関連財務情報開示タスクフォース（TCFD）への賛同機関数が増加するなど、中長期的な企業価値の向上に向け、サステナビリティ（ESG要素を含む中長期的な持続可能性）が重要な経営課題である

との意識が高まっている。こうした中、我が国企業においては、サステナビリティ課題への積極的・能動的な対応を一層進めていくことが重要である。

● 補充原則2-3①

取締役会は、気候変動などの地球環境問題への配慮、人権の尊重、従業員の健康・労働環境への配慮や公正・適切な処遇、取引先との公正・適正な取引、自然災害等への危機管理など、サステナビリティを巡る課題への対応は、リスクの減少のみならず収益機会にもつながる重要な経営課題であると認識し、中長期的な企業価値の向上の観点から、これらの課題に積極的・能動的に取り組むよう検討を深めるべきである。

● 補充原則2-4①

上場会社は、女性・外国人・中途採用者の管理職への登用等、中核人材の登用等における多様性の確保についての考え方と自主的かつ測定可能な目標を示すとともに、その状況を開示すべきである。また、中長期的な企業価値の向上に向けた人材戦略の重要性に鑑み、多様性の確保に向けた人材育成方針と社内環境整備方針をその実施状況と併せて開示すべきである。

● 補充原則3-1③

特に、プライム市場上場会社は、気候変動に係るリスク及び収益機会が自社の事業活動や収益等に与える影響について、必要なデータの収集と分析を行い、国際的に確立された開示の枠組みであるTCFDまたはそれと同等の枠組みに基づく開示の質と量の充実を進めるべきである。

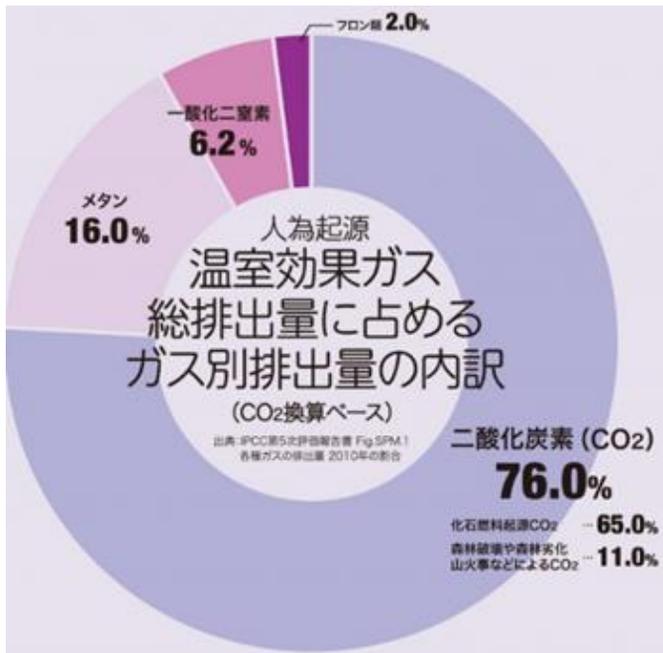
● 補充原則4-2②

取締役会は、中長期的な企業価値の向上の観点から、自社のサステナビリティを巡る取組みについて 基本的な方針を策定すべきである。また、人的資本・知的財産への投資等の重要性に鑑み、これらをはじめとする経営資源の配分や、事業ポートフォリオに関する戦略の実行が、企業の持続的な成長に資するよう、実効的に監督を行うべきである。（下線は筆者注）

このように見てみると、CGCで求めているESG関連開示は特殊なものではないことが

分かるであろう。

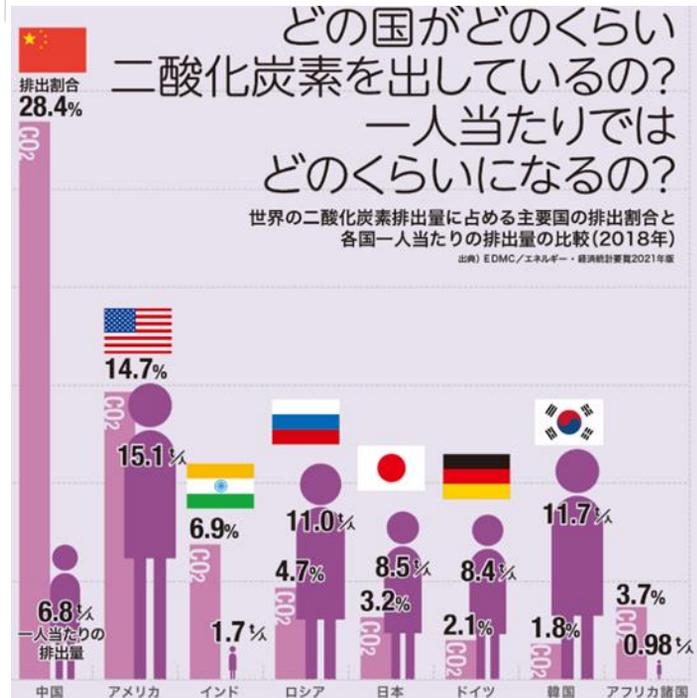
下記はIPCC第5次評価報告書とEDMC/エネルギー・経済統計要覧2021年度の資料だが、ここにあるように温室効果ガスの排出量に占めるガス別内訳で、普通の事業会社がコントロールできるのは二酸化炭素排出量であり、その内の化石燃料由来は全体の65%である。そして、日本の二酸化炭素排出量は全世界の3.2%であり、且つ、



出典：全国地球温暖化防止活動推進センターウェブサイト (<https://www.jccca.org/>) より

しかし、このような考え方で見てみると気候変動関連開示はTCFD提言が念頭に置いた「4つの産業・業種」以外の多くの日本企業にとって大きな負担をかける必要がないことがわかるであろう。逆に、気候変動における自社の影響度合いがそれほど大きくない企業が、気候変動のために過大な負荷がかかる開示を行うこと、それ自体が企業価値毀損のリスクでもある。これらの過度な負担を回避する上でも非財務情報開示の標準化が今後極めて重要になる事は言うまでもないだろう。

一人当たりでも8.5トンとなっている。これを見ると、日本人或いは日本企業がどれだけ真剣に対応してもその影響度合いはそれほど大きくない。もちろん、だからと言って日本人や日本企業は今後の気候変動における意識を高めていく必要が無いということではなく、企業及び日本人として地球の持続性を念頭に行動することは当然のことである。



非財務情報開示標準化の重要性

非財務情報は財務情報のように開示要件が決まっていない。そこで企業が自社独自の非財務情報を開示（例えば女性社員比率）しているが、これではその開示情報がどの程度重要なのか分からないし、競合他社と相対的に評価することが難しい。このような現状を打破する上で「一貫して有用、且つ横比較可能」な定量的な数値や定性的な説明を決めようとする動きが非財務情報開示の標準化である。TCFD提言に基づいた開示も標準化の一環である。昨年11月3日、COP26において、IFRS財団評議員会は、新しい国際サステナビリティ基準委員会（International Sustainability Standard Board 以下ISSB）の設立を発表した。

ISSBは、投資家の情報ニーズを満たすために、高品質なサステナビリティ開示基準の包括的なグローバルベースラインを公益のために開発することを目的にしている。一貫して有用で比較可能な非財務情報の標準化のために大きく動き出し、IFRS財団が関係することによって今後非財務情報の監査まで行うことが前提となっている。この発表の際に「気候関連開示のプロトタイプ（Climate Prototype）」及び「サステナビリティ関連財務情報の開示に関する一般要求事項（General Requirements Prototype）」が公表された。この「気候関連開示のプロトタイプ（Climate Prototype）」はESにおける開示必要事項でも気候変動が喫緊の課題であるとの認識から先行して公開されており、このプロトタイプの主たる特徴として「IFRSサステナビリティ開示基準SX気候関連開示案（以下IFRS SX案）」は、TCFDの提言を取り入れ、2020年12月に気候関連財務開示基準のプロトタイプとして公表された国際的サステナビリティ団体の枠組みや基準の関連要素を出発点としている。「IFRS SX案」の付録として示された「業界開示要件（Appendix B）」は、SASBスタンダードから派生したものであり、SASBスタンダードの11セクター77業種における気候変動関連開示部分を踏襲している（ISSBのAppendix Bでは11セクター70業種になっている）。GRIスタンダード、TCFD提言、CDSB、SASBスタンダード等ある意味乱立した非財務情報開示の標準化の流れは、これらを統合し最終的には監査レベルまで持っていくことを前提としている今回のISSBによる標準化に収斂すると考えられる。

おわりに

最後に筆者の言いたいことをもう一度整理してみたい。まず、気候変動関連への各企業の個別の対応は昨今の「過去最大クラスの」台風や大雨、或いは酷暑を経験すると、必ず必要であると

言える。ただ、明らかに過大な負荷を気候変動開示にかける事は逆に将来のキャッシュフローを減少させ、企業価値毀損に繋がる。

一方で、現在の企業価値増大のため、人員を絞って、絞って、極限まで絞って販管費を落としているような企業は、ある意味効率の良い企業経営を行っているが、そこから出ているキャッシュフローは持続的であるのかといった視点での検証も必要である。例えば、日本でも金融庁管轄下の金融機関では、最低一週間、できれば二週間の連続休暇取得が励行されている。これには金融機関特有の事情である不正行為発見が一つの理由であるが、もう一つの大きな理由として社会の公器である決済機能を維持する必要のある銀行ではいかなる事情においてもシステムが回るように、人員のバックアップがきっちりできているかを確認するためでもある。海外の金融機関では当局の指示の下、突然社員を指定して2週間所属先銀行と一切の連絡を絶つような指示を行っている国もある。このような様々な負荷を検討し、持続的な企業活動が途切れることによって企業価値を大きく毀損するようなリスクを明らかにする必要がある。

従って、気候変動のみならず、企業が持続的成長に支障のあると考えられるリスクを様々な視点から特定・認識する必要がある。そのために企業が取締役会などで「どのようにこの問題を扱うかをまず議論」していただきたい。最初から最終形を目指さなくても良い。なぜならば、今まで取締役会などで議論されなかったのは、今まで顕在化したことがなかったリスクだからであろう。しかし、今後は「一定の産業における標準化された評価基準の中で指摘されているマテリアルな事象」*（注）、を参考にしながら、企業価値を毀損するリスクと思われる事象があるかないかを検討する委員会を取締役会直下で取締役も入れて作ることをお勧めする。そして、その委員会で具体的に議論をしてほしい。

例えば、今後のエネルギー消費量を削減することも大きな温室効果ガス削減の手段である。大上段に振りかぶった理想論で議論する必要はない。議論で重要なことは、より具体的に、オフィスや工場、拠点の照明が蛍光灯や電球を使用している場合はLEDに変更することによって電力消費量削減を検討したり、或いは太陽光発電システムを導入したりと具体的な対応を議論して、それらをいつまでにどれくらいのコストを使って行うのか等を戦略として開示することが重要である。

投資家はまず企業がきちりとリスクを特定し認識しているかを知りたい。そしてそのリスクに対する対処方法や想定影響度合い、或いはそれらリスクを回避するために必要な投資金額等を知りたがっている。まずは、ガバナンスや戦略的対応をより具体的に検討し、その上で、それら戦略を管理する部署を決定し、具体的にどの程度エネルギー消費量を削減するのか等の議論を開始し、それらを具体的に開示すれば良い。日本企業は何に対しても真摯に真面目過ぎるほどの対応をしようとするのではないか。もう少し肩の力を抜いて、

何が将来自社のキャッシュフローを毀損するリスクとなるか（それらをマテリアリティと呼ぶ）を具体的に出来る範囲で検討することを全社的に考えて見てはどうだろうか。誤解してはいけない点は、投資家は将来キャッシュフローが増加する企業発掘によってリターンを得ることを望んでおり、決して過大な負荷のかかる開示コストによるキャッシュのアウトフローを望んでいるのではないということである。

*注：本項「非財務情報開示標準化の重要性」で紹介したIFRS財団が設立した国際サステナビリティ基準委員会（ISSB）が公表した「業界別開示要件（Appendix B）」等が産業別に標準化したマテリアルな事象である。次ページよりこの「業界別開示要件（Appendix B）」の仮訳を添付するので各企業で参照していただきたい。但し、ここで添付した仮訳はディスクロージャー&IR総合研究所において作成した邦訳であり内容については保証の限りでない。利用される場合は、下記ウェブサイトのオリジナルを参照されたい。

<https://www.ifrs.org/content/dam/ifrs/groups/trwg/trwg-climate-related-disclosures-prototype.pdf>

業界別開示要件 Appendix B (仮訳)

下記表の見方：

- 一番左の列はその業種におけるトピック
- その次の列はその業種における評価基準
- 右から二番目の列は定量的か定性的説明かの区分
- 一番右は、その単位（定性的な評価基準はN/aとなっている。）
- 赤枠、赤字の注釈は本来SASBスタンダードで求められている事項が、ISSBのプロトタイプでは空欄となっている部分

1. Consumer goods (消費財)

1 Apparel, Accessories & Footwear (アパレル、アクセサリー、フットウェア)

原材料の調達	優先原材料の調達に関連する環境および社会的リスクの説明	ディスカッションと分析	N/a
	環境および/または社会的持続可能性に関する基準の第三者認証を受けた原材料の割合（基準別）	定量的	Percentage (%) by weight

2 Appliance Manufacturing (電気器具製造業者)

製品ライフサイクルの環境影響	ENERGY STAR®プログラムの認証を受けた売上高別の対象製品の割合	定量的	Percentage (%) by revenue
	家電製品製造者協会（an Association of Home Appliance Manufacturers : AHAM）の持続可能性基準の認証を受けた対象製品の割合	定量的	Percentage (%) by revenue
	製品の使用済み製品の影響を管理するための取り組みの内容	ディスカッションと分析	N/a

3 Household & Personal Products (家庭用品、パーソナル・ケア製品)

水管理	(1)総取水量、(2)総消費水量、ベースライン水ストレスが高い地域または非常に高い地域の割合	定量的	1000m ³ 、%
	水管理のリスクの説明と、それらのリスクを軽減するための戦略と実践の議論	ディスカッションと分析	N/a
パーム油サプライチェーンの環境・社会的影響	パーム油の供給量、持続可能なパーム油に関する円卓会議（RSPO）のサプライチェーンを通じて、(a)識別性の保持、(b)分別、(c)マスバランス、または(d)ブック&クレームとして認証されたパーセンテージ。	定量的	M/mts、%

4 Building Products & Furnishings (建材・家具)

製造業におけるエネルギー管理	(1)総エネルギー消費量、(2)系統電力の割合、(3)再生可能エネルギーの割合	定量的	ギガジュール (GJ)、 %
製品のライフサイクル 環境負荷	製品のライフサイクルにおける影響を管理し、持続可能な製品の需要を満たすための取り組みの説明	ディスカッションと分析	N/a
	(1) 回収された廃材の重量 (2) 回収物の再資源化率	定量的	Metric tons (t), Percentage (%) by weight
ウッドサプライチェーンマネジメント	(1)木質繊維原料の購入総重量、(2)第三者認証林地の割合、(3)規格別の割合、(4)その他の木質繊維規格の認証を受けた割合、(5)規格別の割合 事業者は、調達の慣行を記載しなければならない。(1) 第三者森林管理基準の認証を受けていない森林からの木質繊維原料、(2)その他の木質繊維認証基準の認証を受けていない木質繊維原料。	定量的	Metric tons (t), Percentage (%) by weight

5 E-Commerce (電子商取引)

ハードウェア・インフラ エネルギー・水管理	(1)総エネルギー消費量、(2)系統電力の割合、(3)再生可能エネルギーの割合	定量的	ギガジュール (GJ)、 %
	(1)総取水量、(2)総消費水量、ベースライン水ストレスが高い地域または非常に高い地域の割合	定量的	1000m ³ 、%
	データセンターのニーズに対応した戦略的な計画に環境配慮を統合するための議論	ディスカッションと分析	N/a
製品の包装と流通	製品出荷時の温室効果ガス総排出量 (GHG) フットプリント	定量的	Metric tons (t) CO ₂ -e
	製品納入時の環境負荷を低減するための戦略の検討	ディスカッションと分析	N/a

6 Multiline and Specialty Retailers & Distributors (小売流通業)

小売・流通におけるエネルギー管理	(1)総エネルギー消費量、(2)系統電力の割合、(3)再生可能エネルギーの割合	定量的	ギガジュール (GJ)、 %
------------------	---	-----	-------------------

2. Extractives and minerals processing (1) (抽出鉱物資源加工1)

7 Coal Operations (採炭)

温室効果ガスの排出量	グローバルでのスコープ1の総排出量、排出規制の対象となる割合	定量的	Metric tons (t) CO ₂ -e, Percentage (%)
	スコープ1の排出量を管理するための長期的・短期的な戦略または計画、排出量削減目標、およびそれらの目標に対するパフォーマンスの分析についての議論	ディスカッションと分析	N/a
水管理	総取水量、(2)再利用率、(3)ベースライン水ストレスが高い地域または非常に高い地域の割合	定量的	1000m ³ 、%
	水質許可、基準、および規制に関連したコンプライアンス違反の件数	定量的	件数
積立金評価・設備投資支出	炭素排出量の価格を考慮した将来の価格予測シナリオに対する石灰予備レベルの感度	定量的	Million metric tons (Mt)
	実績のある石灰埋蔵量に含まれる推定二酸化炭素排出量	定量的	Million metric tons (Mt)
	石灰の価格と需要、および/または気候規制が、資産の探査、買収、および開発のための設備投資戦略にどのように影響するかについての議論	ディスカッションと分析	N/a

8 Construction Materials (建築材料)

温室効果ガスの排出量	グローバルでのスコープ1の総排出量、排出規制の対象となる割合	定量的	Metric tons (t) CO ₂ -e, Percentage (%)
	スコープ1の排出量を管理するための長期的・短期的な戦略または計画、排出量削減目標、およびそれらの目標に対するパフォーマンスの分析についての議論	ディスカッションと分析	N/a
空気の質	(1)NO _x (N ₂ Oを除く)、(2)SO _x 、(3)粒子状物質 (PM ₁₀)、(4)ダイオキシン類・フラン、(5)揮発性有機化合物 (VOC)、(6)多環芳香族炭化水素 (PAH)、(7)重金属などの汚染物質の大気排出量	定量的	M/ts
エネルギー管理	(1)総消費電力量、(2)系統電力の割合、(3)代替電力の割合、(4)再生可能エネルギーの割合	定量的	Gigajoules (GJ), Percentage (%)
水管理	(1)総取水量、(2)再利用率、(3)ベースライン水ストレスが高い地域または非常に高い地域の割合	定量的	1000m ³ 、%
廃棄物管理	廃棄物の発生量、有害性の割合、リサイクル率	定量的	M/ts、%
製品イノベーション	持続可能な建築物の設計・施工認定における単位認定の対象となる製品の割合	定量的	Percentage (%) by annual sales revenue
	使用時および/または生産時のエネルギー、水、および/または物質的な影響を低減する製品のアドレス可能な総市場と市場占有率	定量的	金額、%

9 Iron & Steel Producers (製鉄)

温室効果ガスの排出量	グローバルでのスコープ1の総排出量、排出規制の対象となる割合	定量的	Metric tons (t) CO ₂ -e, Percentage (%)
	スコープ1の排出量を管理するための長期的・短期的な戦略または計画、排出量削減目標、およびそれらの目標に対するパフォーマンスの分析についての議論	ディスカッションと分析	N/a
エネルギー管理	(1)総エネルギー消費量、(2)系統電力の割合、(3)再生可能エネルギーの割合	定量的	Gigajoules (GJ), Percentage (%)
	(1)総燃料消費量、(2)石炭比率、(3)天然ガス比率、(4)再生可能エネルギー比率	定量的	Gigajoules (GJ), Percentage (%)
水管理	(1)総取水量、(2)再利用率、(3)ベースライン水ストレスが高い地域または非常に高い地域の割合	定量的	1000m ³ 、%
サプライチェーンマネジメント	環境・社会問題に起因する鉄鉱石や原料炭の調達リスクを管理するためのプロセスについての議論	ディスカッションと分析	N/a

10 Metals & Mining (金属・鉱業)

温室効果ガスの排出量	グローバルでのスコープ1の総排出量、排出規制の対象となる割合	定量的	Metric tons (t) CO ₂ -e, Percentage (%)
	スコープ1の排出量を管理するための長期的・短期的な戦略または計画、排出量削減目標、およびそれらの目標に対するパフォーマンスの分析についての議論	ディスカッションと分析	N/a
エネルギー管理	(1)総エネルギー消費量、(2)系統電力の割合、(3)再生可能エネルギーの割合	定量的	Gigajoules (GJ), Percentage (%)
水管理	(1)取水量、(2)取水量、(3)消費量、ベースライン水ストレスが高い地域または非常に高い地域におけるそれぞれの割合	定量的	1000m ³ 、%
	水質許可、基準、および規制に関連したコンプライアンス違反の件数	定量的	件数

2. Extractives and minerals processing (2) (抽出鉱物資源加工2)

11 Oil & Gas – Exploration & Production (石油ガス-採掘・生産)

温室効果ガスの排出量	グローバル総排出量 (Scope1)、メタンの割合、排出制限規制の対象となる割合	定量的	Metric tons CO ₂ -e (t), Percentage (%)
	(1)フレア炭化水素、(2)その他の燃焼、(3)プロセス排出、(4)その他の通気性のある排出、(5)漏洩排出 (Fugitive emissions)などからのグローバル総排出量。	定量的	Metric tons CO ₂ -e
	スコープ1の排出量を管理するための長期的・短期的な戦略または計画、排出量削減目標、およびそれらの目標に対するパフォーマンスの分析についての議論	ディスカッションと分析	N/a
水管理	(1)取水量、(2)取水率、(3)消費量、ベースライン水ストレスが高い地域または非常に高い地域におけるそれぞれの割合	定量的	1000m ³ 、%
	生産水量と逆流水の発生量、(1)排出量、(2)注入量、(3)リサイクル量の割合、排出水の炭化水素含有量	定量的	1000m ³ 、%、M/ts
	使用されたすべての化学物質が公開されている水圧破砕井戸の割合	定量的	%
	基準値と比較して地下水や地表水の水質が悪化した水圧破砕事業所の割合 企業は、地下および表層水の水質管理に関する方針と実践を開示しなければならない。	定量的	%

12 Oil & Gas – Exploration & Production (石油ガス-採掘・生産) 続き

積立金評価・設備投資支出	炭素排出量の価格を考慮した将来の価格予測シナリオに対する炭化水素埋蔵量の感度	定量的	Million barrels (MMbbls), Million standard cubic feet (MMscf)
	証明済み炭化水素埋蔵量に埋蔵されている二酸化炭素排出量の推定値	定量的	Metric tons (t) CO ₂ -e
	再生可能エネルギーへの投資額、再生可能エネルギー販売による売上高	定量的	金額
	炭化水素の価格と需要、気候変動の規制が、資産の探査、取得、開発のための設備投資戦略にどのように影響を与えるかの議論	ディスカッションと分析	N/a

13 Oil & Gas – Midstream (石油ガス・中流)

温室効果ガスの排出量	グローバル総排出量 (Scope1)、メタンの割合、排出制限規制の対象となる割合	定量的	Metric tons (t) CO ₂ -e, Percentage (%)
	スコープ1の排出量を管理するための長期的・短期的な戦略または計画、排出量削減目標、およびそれらの目標に対するパフォーマンスの分析についての議論	ディスカッションと分析	N/a

14 Oil & Gas – Refining & Marketing (石油ガス-精製・販売)

温室効果ガスの排出量	グローバルでのスコープ1の総排出量、排出規制の対象となる割合	定量的	Metric tons (t) CO ₂ -e, Percentage (%)
	スコープ1の排出量を管理するための長期的・短期的な戦略または計画、排出量削減目標、およびそれらの目標に対するパフォーマンスの分析についての議論	ディスカッションと分析	N/a
水管理	(1)総取水量、(2)再利用率、(3)ベースライン水ストレスが高い地域または非常に高い地域の割合	定量的	1000m ³ 、%
	水質許可、基準、および規制に関連したコンプライアンス違反の件数	定量的	件数
製品仕様とクリーン燃料ブランド	再生可能量義務(RVO)の割合：(1) 再生可能燃料の生産、(2) 「分離型」再生可能識別番号 (RIN) の購入	定量的	%
	先進的なバイオ燃料と関連インフラの実現可能な最大の市場規模とシェア	定量的	金額、%

15 Oil & Gas – Services (石油ガス-サービス)

排出量削減サービスと燃料管理	総燃料消費量、再生可能エネルギーの割合、使用量の割合 (1)路上走行用機器・車両、(2)オフロード走行用機器	定量的	Gigajoules (GJ), Percentage (%)
	大気排出に関連するリスク、機会、および影響に対処するための戦略または計画の議論	ディスカッションと分析	N/a
	非道路用ディーゼルエンジンの排出ガスについて Tier 4 適合を満たしている稼働中のエンジンの割合	定量的	%
水管理サービス	(1)事業活動における淡水の総取扱量、(2)再資源化率	定量的	1000m ³ 、%
	水の消費と廃棄に関連するリスク、機会、および影響に対処するための戦略または計画の議論	ディスカッションと分析	N/a

3. Food and beverage (1) (飲食料1)

16 Agricultural Products (農業・農産物)

温室効果ガスの排出量	グローバルでのスコープ1の総排出量	定量的	Metric tons (t) CO ₂ -e
	スコープ1の排出量を管理するための長期的・短期的な戦略または計画、排出量削減目標、およびそれらの目標に対するパフォーマンスの分析についての議論	ディスカッションと分析	N/a
	車両燃料消費量、再生可能率	定量的	ギガジュール (GJ) 割合 (%)
エネルギー管理	(1)運転エネルギー消費量、(2)系統電力の割合、(3)再生可能エネルギーの割合	定量的	ギガジュール (GJ) 割合 (%)
水管理	(1)総取水量、(2)総消費水量、Baseline Water Stressが高い地域または非常に高い地域の割合	定量的	立方メートル 割合 (%)
	水管理のリスクの説明と、それらのリスクを軽減するための戦略と実践の議論	ディスカッションと分析	N/a
	水量および/または水質に関する許可、基準、および規制に関連した違反の件数	定量的	件数
原材料の調達	主要作物の特定と気候変動がもたらすリスクと機会の説明	ディスカッションと分析	N/a
	Baseline Water Stressが高い、または極めて高い地域から調達された農産物の割合	定量的	Percentage (%) by cost

17 Alcoholic Beverages (アルコール飲料)

エネルギー管理	(1)運転エネルギー消費量、(2)系統電力の割合、(3)再生可能エネルギーの割合	定量的	ギガジュール (GJ) 割合 (%)
水管理	(1)総取水量、(2)総消費水量、Baseline Water Stressが高い地域または非常に高い地域の割合	定量的	立方メートル 割合 (%)
	水管理のリスクの説明と、それらのリスクを軽減するための戦略と実践の議論	ディスカッションと分析	N/a
原材料のサプライチェーンが環境・社会に与える影響	お取引先の社会的・環境的責任監査 (1) 不適合率と(2) (a)重大な不適合と(b)軽微な不適合の是正処置率	定量的	率
原材料の調達	Baseline Water Stressが高い地域または極めて高い地域から調達された飲料原料の割合	定量的	Percentage (%) by cost
	重点的に使用する飲料原料のリストと環境・社会的配慮による調達リスクの説明	ディスカッションと分析	N/a

18 Meat, Poultry & Dairy (食肉、鶏肉、乳製品)

温室効果ガスの排出量	グローバルでのスコープ1の総排出量	定量的	Metric tons (t) CO ₂ -e
	スコープ1の排出量を管理するための長期的・短期的な戦略または計画、排出量削減目標、およびそれらの目標に対するパフォーマンスの分析についての議論	ディスカッションと分析	N/a
エネルギー管理	(1)総エネルギー消費量、(2)系統電力の割合、(3)再生可能エネルギーの割合	定量的	ギガジュール (GJ) 割合 (%)
水管理	(1)総取水量、(2)総消費水量、Baseline Water Stressが高い地域または非常に高い地域の割合	定量的	立法メートル、%
	水管理のリスクの説明と、それらのリスクを軽減するための戦略と実践の議論	ディスカッションと分析	N/a
	水質に関する許認可・基準・規制の違反件数	定量的	件数
土地利用と生態系への影響	家畜糞尿の発生量、栄養管理計画に基づく管理割合	定量的	M/tons、%
	自然資源保護局 (Natural Resources Conservation Service:NRCS) の保全計画基準で管理されている放牧地の割合	定量的	Percentage (%) by hectares
	集中給餌事業 (concentrated animal feeding operations :CAFO) からの動物性タンパク質生産	定量的	M/tons

19 Meat, Poultry & Dairy (食肉、鶏肉、乳製品) 続き

動物と飼料の調達	Baseline Water Stressが高い地域または非常に高い地域から供給された飼料の割合	定量的	Percentage (%) by weight
	Baseline Water Stressが高いまたは非常に高い地域に位置する生産者との契約の割合	定量的	Percentage (%) by contract value
	気候変動がもたらす飼料調達と家畜供給の機会とリスクを管理するための戦略の議論	ディスカッションと分析	N/a

3. Food and beverage (2) (飲食料2)

20 Non-Alcoholic Beverages (ノンアルコール飲料)

車両燃料管理	車両燃料消費量、再生可能率	定量的	ギガジュール (GJ) 割合 (%)
エネルギー管理	(1)運転エネルギー消費量、(2)系統電力の割合、(3)再生可能エネルギーの割合	定量的	ギガジュール (GJ) 割合 (%)
水管理	(1)総取水量、(2)総消費水量、におけるBaseline Water Stressが高い地域または非常に高い地域の割合	定量的	立方メートル、%
	水管理のリスクの説明と、それらのリスクを軽減するための戦略と実践の議論	ディスカッションと分析	N/a
原材料のサプライチェーンが環境・社会に与える影響	サプライヤーの社会的・環境的責任監査 (1) 不適合率と (2) (a)重大な不適合と(b)軽微な不適合の是正処置率	定量的	割合
原材料の調達	Baseline Water Stressが高い地域または極めて高い地域から調達された飲料原料の割合	定量的	Percentage (%) by cost
	重点的に使用する飲料原料のリストと環境・社会的配慮による調達リスクの説明	ディスカッションと分析	N/a

21 Processed Foods (加工食品)

エネルギー管理	(1)運転エネルギー消費量、(2)系統電力の割合、(3)再生可能エネルギーの割合	定量的	ギガジュール (GJ) 割合 (%)
水管理	(1)総取水量、(2)総消費水量、Baseline Water Stressが高い地域または非常に高い地域の割合	定量的	立方メートル 割合 (%)
	水量および/または水質に関する許可、基準、および規制に関連した違反の件数	定量的	件数
	水管理のリスクの説明と、それらのリスクを軽減するための戦略と実践の議論	ディスカッションと分析	N/a
原材料のサプライチェーンが環境・社会に与える影響	第三者機関による環境・社会基準の認証を受けた食材の割合と基準別の割合	定量的	Percentage (%) by cost
	サプライヤーの社会的・環境的責任監査 (1) 不適合率と (2) (a)重大な不適合と(b)軽微な不適合の是正処置率	定量的	率
原材料の調達	Baseline Water Stressが高い地域または非常に高い地域から調達された食材の割合	定量的	Percentage (%) by cost
	重点食材のリストと環境・社会的配慮による調達リスクの検討	ディスカッションと分析	N/a

22 Food Retailers & Distributors (食品小売り・流通)

車両燃料管理	車両燃料消費量、再生可能率	定量的	ギガジュール (GJ) 割合 (%)
冷蔵庫からの大 気排出量	冷蔵庫からのグローバル総排出量 (Scope1) の推移	定量的	Metric tons (t) CO ₂ -e
	オゾン層破壊係数ゼロの冷蔵庫の使用割合	定量的	Percentage (%) by weight
	平均冷媒排出率	定量的	%
エネルギー管理	(1)運転エネルギー消費量、(2)系統電力の割合、(3)再生可能エネルギーの割合	定量的	ギガジュール (GJ) 割合 (%)
サプライチェーンにおける環 境・社会的影響 の管理	環境・社会的持続可能性調達基準の第三者認証を取得した製品からの収益	定量的	金額
	(1)ケージを使用しない環境で生産された卵と(2)妊娠クレーンを使用しないで生産された豚肉の収益の割合	定量的	Percentage (%) by weight
	動物福祉を含むサプライチェーンにおける環境・社会リスク管理戦略の検討	ディスカッション と分析	N/a
	包装材の環境負荷を低減するための戦略の議論	ディスカッション と分析	N/a

注：赤線部分の欄は存在するが、空欄となっている。

23 Restaurants (レストラン)

エネルギー管理	(1)総エネルギー消費量、(2)系統電力の割合、(3)再生可能エネルギーの割合	定量的	ギガジュール (GJ) 割合 (%)
水管理	(1)総取水量、(2)総消費水量、Baseline Water Stress が高い地域または非常に高い地域の割合	定量的	立方メートル 割合 (%)
サプライチェーン マネジメント と食品調達	(1)環境・社会的調達基準を満たし、(2)第三者の環境・社会的基準の認証を受けた食品の購入割合	定量的	Percentage (%) by cost
	(1)ケージを使用しない環境で生産された卵と(2)妊娠クレーンを使用しないで生産された豚肉の割合	定量的	Percentage (%) by number, Percentage (%) by weight
	動物福祉を含むサプライチェーンにおける環境・社会リスク管理戦略の検討	ディスカッション と分析	N/a

注：赤線部分の欄は存在するが、空欄となっている。

4. Financials (金融)

24 Asset Management & Custody Activities (投資顧問業・カストディ業務)

投資運用・アドバイザーにおける環境、社会、ガバナンスの要素の組み込み	(1)環境・社会・ガバナンス (ESG) 問題の統合、(2)持続可能性をテーマにした投資、(3)スクリーニングを採用しているアセットクラス別の運用資産額	定量的	金額
	投資および/またはウェルスマネジメントのプロセスと戦略に環境、社会、ガバナンス (ESG) 要素を取り入れるためのアプローチの説明	ディスカッションと分析	N/a
	委任状による議決権行使および投資先の関与の方針と手続きの説明	ディスカッションと分析	N/a

25 Commercial Banks (商業銀行)

信用分析における環境・社会・ガバナンス要因の組み入れ	商業用および産業用の信用エクスポージャー (産業別)	定量的	金額
	信用分析にESG (環境・社会・ガバナンス) 要素を組み込むためのアプローチの説明	ディスカッションと分析	N/a

26 Insurance (保険)

投資運用における環境・社会・ガバナンス要素の取り込み	投資資産総額 (業種別・資産クラス別)	定量的	金額
	投資運用のプロセスや戦略にESG (環境・社会・ガバナンス) 要素を取り入れるためのアプローチの説明	ディスカッションと分析	N/a
責任ある行動を促すための方針	エネルギー効率化および低炭素技術に関連する正味収入保険料	定量的	金額
	健康、安全、環境に配慮した責任ある行動や行動を促す製品や製品の特徴についての議論	ディスカッションと分析	N/a
環境リスク・エクスポージャー	気象関連の自然災害による被保険商品のPML (Probable Maximum Loss) PML の計算に使用した気候関連のシナリオを、重要な入力パラメータ、前提条件および考慮事項、分析の選択、および時間枠を含めて記述しなければならない。	定量的	金額
	(1)モデル化された自然災害および(2)モデル化されていない自然災害による保険金支払いに帰属する金銭的損失の総額を、事象の種類および地理的セグメント別に記載 (再保険の純額およびグロス) 気候変動に関連した影響と気象関連損失の変動性が再保険のコストにどのような影響を与えるか、再保険を通じたリスク移転のアプローチについて議論しなければならない。	定量的	金額
	(1)個別契約の引受プロセス、(2)会社レベルのリスク管理と自己資本の充実に環境リスクを組み入れるためのアプローチの説明	ディスカッションと分析	N/a

27 Investment Banking & Brokerage (投資銀行・証券業)

投資銀行・証券会社活動における環境、社会、ガバナンスの要素の組み込み	環境・社会・ガバナンス (ESG) を組み込んだ証券化案件の業種別収益 (1) 引受収益、(2) アドバイザリー収益、(3) 証券化案件の業種別収益	定量的	金額
	(1)環境・社会・ガバナンス (ESG) 要素を組み込んだ投融資の業種別の件数と総額	定量的	件数、金額
	投資銀行・証券会社活動におけるESG (環境・社会・ガバナンス) 要素の取り入れ方の説明	ディスカッションと分析	N/a

28 Mortgage Finance (モーゲージ・住宅金融)

抵当不動産の環境リスク	(1) 100年水害地域の住宅ローンの数と(2)の価値	定量的	件数、金額
	(1) 地域別にみた、天候関連の自然災害による住宅ローンのデフォルトおよび延滞に起因する予想損失および(2)LSD (Loss Given Default) の合計額	定量的	金額、%
	気候変動やその他の環境リスクを住宅ローンの組成と引受にどのように組み込んでいるかの説明	ディスカッションと分析	N/a

5. Health care (ヘルスケア)

29 Health Care Delivery (医療介護供給)

エネルギー管理	(1)総エネルギー消費量、(2)系統電力の割合、(3)再生可能エネルギーの割合	定量的	ギガジュール (GJ)、%
廃棄物管理	(a)焼却、(b)リサイクルまたは処理の医療廃棄物の総量と(c)埋め立ての割合	定量的	M/ts
	(1)有害医薬品廃棄物と(2)非有害医薬品廃棄物の合計量、(a)焼却、(b)再資源化または処理の総量と(c)埋立処分の割合	定量的	M/ts、%
気候変動が人間の健康とインフラに与える影響	取り組むための方針と実践の記述。(1) 異常気象の頻度と強度の増加に起因する物理的リスク、および(2) 気候変動に伴う疾病や疾患の罹患率と死亡率の変化。	ディスカッションと分析	N/a
	メディケア・メディケイド・サービスセンター (CMS) の緊急時対応規則に準拠している医療施設の割合	定量的	%

30 Health Care Distributors

車両燃料管理	輸送貨物燃費	定量的	Gallons, Tons (U.S.), Miles
	物流の環境負荷低減に向けた取り組みの説明	ディスカッションと分析	N/a

31 Managed Care

気候変動が人間の健康に与える影響	気候変動が事業活動に及ぼす影響に対処するための戦略と、疾病や疾患の地理的な発生率、罹患率、死亡率の変化によってもたらされる具体的なリスクが、どのようにリスクモデルに組み込まれているかについての議論	ディスカッションと分析	N/a
------------------	--	-------------	-----

32 Medical Equipment & Supplies (医療機器製造販売)

製品設計とライフサイクル管理	製品に含まれる化学物質に関連した環境と健康への配慮を評価・管理し、持続可能な製品の需要に対応するためのプロセスの議論	ディスカッションと分析	N/a
	引き取り、リユース、リサイクル、または寄付のために受け入れられた製品の総量を以下の項目別に分類すること(1)機器および装置、(2)消耗品	定量的	M/ts

33 Drug Retailers (薬局・薬小売)

小売業におけるエネルギー管理	(1)総エネルギー消費量、(2)系統電力の割合、(3)再生可能エネルギーの割合	定量的	ギガジュール(GJ)、%
----------------	---	-----	--------------

6. Infrastructure (1) (公共インフラ1)

34 Electric Utilities & Power Generators (電力・発電)

温室効果ガス排出量とエネルギー資源計画	(1) スコープ1のグローバル総排出量、(2)排出制限規制、(3)排出量報告規制の対象となる割合	定量的	Metric tons (t) CO ₂ -e, Percentage (%)
	送電に伴う温室効果ガス (GHG) 排出量	定量的	Metric tons (t) CO ₂ -e
	スコープ1の排出量を管理するための長期的・短期的な戦略または計画、排出量削減目標、およびそれらの目標に対するパフォーマンスの分析についての議論	ディスカッションと分析	N/a
	(1)再生可能ポートフォリオ基準 (RPS) 対象市場の顧客数と、(2)市場別のRPS目標達成率 企業は、再生可能ポートフォリオ基準 (RPS) の規制がある市場や規制が始まっている市場での事業活動について、規制上の義務を果たしているかどうか、規制により事業体の再生可能エネルギーポートフォリオの将来的な増加や変更が必要かどうか、新たな規制へのコンプライアンスを維持するための戦略などを含めて議論しなければならない。	定量的	件数、%
水管理	(1)総取水量、(2)総消費水量、ベースライン水ストレスが高い地域または非常に高い地域の割合	定量的	1000m ³ 、%
	水量および/または水質に関する許可、基準、および規制に関連した違反の件数	定量的	件数
	水管理のリスクの説明と、それらのリスクを軽減するための戦略と実践の議論	ディスカッションと分析	N/a
最終用途の効率と需要	(1)デカップリングされ、(2)失われた収入調整メカニズム (LRAM) を含む料金体系の電気事業収入の割合	定量的	%
	スマートグリッド技術が提供する電気負荷の割合 企業は、スマートグリッドの開発と運用に関連した機会と課題について議論するものとする。	定量的	Percentage (%) by megawatt hours (MWh)
	効率化対策による顧客の電力節約量、市場別 企業は、その事業を行う各市場に関連する顧客効率規制について協議しなければならない。	定量的	Megawatt hours (MWh)
原子力安全・危機管理	米国原子力規制委員会(NRC)のアクションマトリックスのコラム別に分類した原子力発電所の総数	定量的	件数
	原子力安全・防災管理への取り組みの説明	ディスカッションと分析	N/a
グリッドの回復力	物理的および/またはサイバーセキュリティの基準または規制に対する違反の件数	定量的	件数
	(1)システム平均中断時間指数 (SAIDI) 、(2)システム平均中断頻度指数 (SAIFI) 、(3)顧客平均中断時間指数 (CAIDI) 、主要イベント日を含む 企業は、かなりの数の顧客に影響を与えたものや、継続期間の長い中断など、注目すべきサービスの中断について議論しなければならない。	定量的	分、件数

35 Engineering & Construction Services (エンジニアリング・建築サービス)

プロジェクト開発に伴う環境影響	環境許認可・基準・規制違反件数	定量的	件数
	プロジェクトの設計、立地、建設に関連する環境リスクを評価し、管理するためのプロセスについての議論	ディスカッションと分析	N/a
構造の完全性と安全性	欠陥・安全関連の手直し費用の金額	定量的	金額
	瑕疵・安全関連事故に係る訴訟手続に伴う金銭的損失の総額 企業は、その性質、状況、および金銭的損失の結果として取られた是正措置を簡潔に記述しなければならない。	定量的	金額
建物・インフラのライフサイクルインパクト	(1)第三者機関による多属性サステナビリティ基準の認証を取得した委託プロジェクトと、(2)認証取得を目指して活動中のプロジェクトの数	定量的	件数
	プロジェクトの計画と設計に運用段階のエネルギー効率と水効率の考慮を組み込むためのプロセスの議論	ディスカッションと分析	N/a
ビジネスミックスの気候影響	(1)炭化水素関連案件、(2)再生可能エネルギー関連案件のバックログ量	定量的	金額
	炭化水素関連プロジェクトに伴うバックログの解約額	定量的	金額
	気候変動の緩和に伴う非エネルギープロジェクトのバックログ量	定量的	金額

6. Infrastructure (2) (公共インフラ2)

36 Gas Utilities & Distributors (ガス製造・販売)

最終的な使用効率	(1)デカップリングされているか、(2)失われた収入調整メカニズム (LRAM) を含む料金体系のガス事業収入の割合	定量的	%
	市場別の効率化対策による顧客ガスの節約量 企業は、関連する市場ごとに規制上必要とされる顧客効率化対策を協議しなければならない。	定量的	Million British Thermal Units (MMBtu)
ガス供給インフラの健全性	(1)報告されたパイプライン事故の数、(2)是正措置命令 (CAO)、(3)NOPV (Notice of Probable Violation) 企業は、相当数の顧客に影響を与えた、サービスの長期的な中断を生じさせた、または重大な人身事故または死亡事故をもたらしたなどの特筆すべきインシデントについて議論しなければならない。	定量的	件数
	(1)鋳鉄および/または錬鉄、(2)保護されていない鋼製の配電管路の割合	定量的	Percentage (%) by length
	ガス(1)送配電と (2) 配電管路の点検率	定量的	Percentage (%) by length
	安全性や排出ガスに関するリスクを含む、ガス配送インフラの健全性を管理するための取り組みの説明	ディスカッションと分析	N/a

37 Home Builders (住宅建設)

土地利用と生態系への影響	再開発事業用地における (1) 分譲地と (2) 住宅の引渡し件数	定量的	件数
	ベースラインの水ストレスが高い地域または非常に高い地域で引き渡された(1)の土地と(2)の住宅の数	定量的	件数
	環境規制に伴う法的手続きに伴う金銭的損失の総額 企業は、その性質、状況、金銭的損失の結果として取られた是正措置を簡潔に記述しなければならない。	定量的	金額
	サイトの選択、サイトの設計、サイトの開発と建設に環境配慮を統合するためのプロセスの議論	ディスカッションと分析	N/a
資源効率化のための設計	(1)認定HERS®インデックススコアを取得した住宅数と(2)平均スコア	定量的	件数、インデックススコア
	WaterSense®仕様の認定を受けた設置された水道設備の割合	定量的	%
	第三者機関による多属性グリーンビルディング基準の認証を受けた住宅の引渡戸数	定量的	件数
	住宅設計に資源効率を取り入れることに関連したリスクと機会の説明と、そのメリットをどのように顧客に伝えるかの説明	ディスカッションと分析	N/a
気候変動への適応	100年浸水区域に位置する土地の数	定量的	件数
	気候変動リスク・エクスポージャー分析、系統的なポートフォリオ・エクスポージャーの程度、リスクを軽減するための戦略の説明	ディスカッションと分析	N/a

38 Real Estate (不動産・REIT)

エネルギー管理	資産サブセクターごとの、フロア面積の割合によるエネルギー消費データ計測範囲	定量的	Percentage (%) by floor area
	資産サブセクターごとの、(1) データ計測を実施しているポートフォリオ全体の総エネルギー消費量、(2) グリッド電力の割合、(3) 再生可能エネルギーの割合	定量的	ギガジュール (GJ)、%
	資産サブセクターごとの、データ計測を実施しているポートフォリオ全体のエネルギー消費の同一条件下での経年推移	定量的	%
	資産サブセクターごとの、(1) エネルギー評価を取得している適格ポートフォリオの割合、(2) ENERGY STAR®認証を受けた適格ポートフォリオの割合	定量的	Percentage (%) by floor area
	建物のエネルギーマネジメントへの配慮が資産投資分析や事業戦略にどのように組み入れられているかについての説明	ディスカッションと分析	N/a
水管理	資産サブセクターごとの、(1) 総床面積における割合による取水データ計測範囲、(2)水ストレスが「高い」「極めて高い」地域の床面積に対する割合	定量的	Percentage (%) by floor area
	資産サブセクターごとの、(1) データ計測を実施しているポートフォリオ全体の総取水量、(2)水ストレスが「高い」「極めて高い」地域の割合	定量的	1000m ³ 、%
	資産サブセクターごとの、データ計測を実施しているポートフォリオ全体の取水量の同一条件下での経年推移	定量的	%
	ウォーターマネジメントにおけるリスクの議論、およびリスク低減に向けた戦略と取り組みに関する説明	ディスカッションと分析	N/a

6. Infrastructure (3) (公共インフラ3)

38 Real Estate (不動産・REIT) 続き

テナントのサステナビリティインパクトのマネジメント	資産サブセクターごとの、(1)資源効率に関連する資本改善に対するコスト回収条項を含む新規リースの割合、(2)関連リースフロア面積	定量的	Percentage (%) by floor area, Square feet (ft ²)
	資産サブセクターごとの、(1) グリッド電力消費、(2) 取水を個別に、またはサブメーターで計測しているテナントの割合	定量的	Percentage (%) by floor area
	テナントのサステナビリティインパクトを測定、動機づけ、向上するためのアプローチに関する議論	ディスカッションと分析	N/a
気候変動適応	資産サブセクターごとの、100年以内の洪水地域にある資産の面積	定量的	Square feet (ft ²)
	気候変動リスクエクスポージャー分析、体系的ポートフォリオエクスポージャーの程度、リスク低減戦略に関する説明	ディスカッションと分析	N/a

39 Real Estate Services (不動産賃貸)

サステナビリティサービス	エネルギーおよび持続可能性サービスからの収入 事業体は、提供するエネルギー・持続可能性サービスの 内容を記載しなければならない。	定量的	金額
	(1) エネルギー及び持続可能性サービスを提供する床面 積及び(2) 管理下にある建物の数	定量的	Square feet (ft ²), Number
	(1)床面積、(2)エネルギー格付けを取得した管理棟数	定量的	Square feet (ft ²), Number

40 Water Utilities & Services (水道事業)

エネルギー管理	(1)総エネルギー消費量、(2)系統電力の割合、(3)再生 可能エネルギーの割合	定量的	ギガジュール (GJ)、%
配水網の効率性	水道管交換率 企業は、配水システムにおける計画的・是正的なメンテ ナンスの利用と課題について議論しなければならない。	定量的	割合
	無収入の実水損失量	定量的	1000m ³
最終的な使用効 率	保全と収益の回復力を促進するように設計された料金体 系による水道事業収入の割合	定量的	%
	効率化対策による顧客の水の節約量、市場別 事業体は、関連する市場ごとに規制で義務付けられてい る顧客効率化措置について議論しなければならない。	定量的	m ³
水供給の回復力	ベースラインの水ストレスが高いまたは非常に高い地域 から供給された水の総量、第三者からの購入割合	定量的	1000m ³ 、%
	お客さまへの再生水の納入量	定量的	1000m ³
	水資源の質と利用可能性に関連するリスクを管理するた めの戦略の議論	ディスカッション と分析	N/a
ネットワークの 回復力と気候変 動の影響	100年浸水区域に位置する排水処理能力	定量的	m ³ /日
	(1)汚水処理施設の数と(2)汚水処理施設のオーバーフ ロー量、(3)回収量の割合	定量的	件数、m ³ 、%
	(1) 計画外のサービス障害の発生件数、(2) 影響を受け た顧客、それぞれの期間区分別 事業体は、有意な人口に影響を与えたものや持続期間が 長期化したものなど、顕著なサービスの中断について説 明しなければならない。	定量的	件数
	気候変動が流通・廃水インフラに与える影響に関連した リスクと機会を特定し、管理するための取り組みの説明	ディスカッション と分析	N/a

41 Waste Management (廃棄物管理)

温室効果ガスの排出量	(1) スコープ1のグローバル総排出量、(2)排出制限規制、(3)排出量報告規制の対象となる割合	定量的	Metric tons (t) CO ₂ -e, Percentage (%)
	(1)埋立ガス総発生量、(2)フレア率、(3)エネルギー利用率	定量的	Million British Thermal Units (MMBtu), Percentage (%)
	スコープ1とライフサイクル排出量を管理するための長期的・短期的な戦略または計画、排出量削減目標、およびそれらの目標に対するパフォーマンスの分析についての議論。	ディスカッションと分析	N/a
車両燃料管理	(1)燃料消費量、(2)天然ガスの割合、(3)再生可能エネルギーの割合	定量的	ギガジュール (GJ)、%
	代替燃料車の割合	定量的	%

7. Renewable resources and alternative energy (1) (再生可能エネルギー1)

42 Biofuels (バイオ燃料)

製造業における水管理	(1)総取水量、(2)総消費水量、ベースライン水ストレスが高い地域または非常に高い地域の割合	定量的	1000m ³ 、%
	水管理のリスクの説明と、それらのリスクを軽減するための戦略と実践の議論	ディスカッションと分析	N/a
	水質許可、基準、および規制に関連したコンプライアンス違反の件数	定量的	件数
ライフサイクル排出量バランス	バイオ燃料の種類別のライフサイクル温室効果ガス (GHG) 排出量	定量的	Grams of CO ₂ -e per megajoule (MJ)
原材料の調達と環境への影響	原料生産の環境影響に伴うリスク管理戦略の検討	ディスカッションと分析	N/a
	環境持続可能性基準の第三者認証を受けたバイオ燃料生産の割合	定量的	Percentage (%) of gallons
法的規制環境の管理	国の制度で受けた補助金の額	定量的	金額
	産業界に影響を与える環境・社会的要因に対処するための政府の規制や政策提案に関する企業の立場についての議論	ディスカッションと分析	N/a

43 Forestry Management (林業)

生態系サービス (生物・生態系に由来し、人類の利益になる機能)と影響	第三者機関による森林管理基準の認証を受けた森林の面積、各基準の認証率 認証を受けていない林地の林業管理方法を記載し、認証の一時停止または解除された森林管理認証については、その数、関連する面積、一時停止または解除の理由を開示しなければならない。	定量的	エーカー、%
	保護されている森林の面積	定量的	エーカー
	絶滅危惧種の生息地の林地面積	定量的	エーカー
	林地が提供する生態系サービス(生物・生態系に由来し、人類の利益になる機能)の機会を最適化するためのアプローチの説明	ディスカッションと分析	N/a
気候変動への適応	気候変動がもたらす森林管理と木材生産の機会とリスクを管理するための戦略の説明	ディスカッションと分析	N/a

44 Fuel Cells & Industrial Batteries (燃料電池・工業用バッテリー)

エネルギー管理	(1)総エネルギー消費量、(2)系統電力の割合、(3)再生可能エネルギーの割合	定量的	ギガジュール(GJ),%
製品効率	電池の平均蓄電容量、製品用途および技術タイプ別	定量的	Specific energy (Wh/kg)
	燃料電池の平均エネルギー効率を(1)電気効率、(2)熱効率とした場合の製品用途・技術別の平均エネルギー効率	定量的	%
	クーロン効率としての平均電池効率、製品用途および技術タイプ別	定量的	%
	燃料電池の平均寿命(製品用途別、技術タイプ別)	定量的	時間
	電池の平均寿命(製品用途および技術タイプ別)	定量的	Number of cycles

45 Pulp & Paper Products (紙パルプ)

温室効果ガスの排出量	グローバルでのスコープ1の総排出量	定量的	Metric tons (t) CO ₂ -e
	スコープ1の排出量を管理するための長期的・短期的な戦略または計画、排出量削減目標、およびそれらの目標に対するパフォーマンスの分析についての議論	ディスカッションと分析	N/a
エネルギー管理	(1)総エネルギー消費量、(2)系統電力の割合、(3)バイオマスの割合、(4)その他再生可能エネルギーの割合 企業は、エネルギーへのバイオマス利用に関連するリスクと不確実性について議論しなければならない。	定量的	ギガジュール (GJ),%
水管理	(1)総取水量、(2)総消費水量、ベースライン水ストレスが高い地域または非常に高い地域の割合	定量的	1000m ³ 、%
	水管理のリスクの説明と、それらのリスクを軽減するための戦略と実践の議論	ディスカッションと分析	N/a
サプライチェーンマネジメント	(1)第三者認証林地からの木質繊維の調達割合と各基準に対する割合、(2)その他の繊維調達基準を満たしている場合の木質繊維の調達割合と各基準に対する割合 企業は、認証された森林からのものではない繊維、または他の繊維調達基準の認証を受けたものではない繊維について、デューデリジェンスの実践について議論するものとします。	定量的	Percentage (%) by weight
	リサイクル・回収繊維の調達量 企業は、再生繊維や回収繊維の調達先をバージン繊維ではなく、再生繊維や回収繊維にするかどうかの決定に環境ライフサイクル分析を組み込むための戦略を議論しなければならない。	定量的	M/ts

7. Renewable resources and alternative energy (2) (再生可能エネルギー2)

46 Solar Technology & Project Developers (太陽光発電)

製造業におけるエネルギー管理	(1)総エネルギー消費量、(2)系統電力の割合、(3)再生可能エネルギーの割合	定量的	ギガジュール (GJ),%
製造業における水管理	(1)総取水量、(2)総消費水量、ベースライン水ストレスが高い地域または非常に高い地域の割合	定量的	1000m ³ 、%
	水管理のリスクの説明と、それらのリスクを軽減するための戦略と実践の議論	ディスカッションと分析	N/a
エネルギーインフラ統合・関連法規の管理	既存のエネルギーインフラへの太陽光発電の導入に伴うリスクの説明と、そのリスクを管理するための取り組みについての議論	ディスカッションと分析	N/a
	エネルギー政策に関連するリスクと機会、および既存のエネルギーインフラへの太陽エネルギーの統合に与える影響の説明	ディスカッションと分析	N/a

47 Wind Technology & Project Developers (風力発電)

材料の効率性	消費された材料の重量別トップ5	定量的	M/ts
	風車クラス別のタービン容量当たりの平均トップヘッド質量	定量的	Metric tons per megawatts (t/MW)
	風車設計の材料効率を最適化するためのアプローチの説明	ディスカッションと分析	N/a

8. Resource transformation (資源加工)

48 Aerospace & Defense (航空・防衛)

エネルギー管理	(1)総エネルギー消費量、(2)系統電力の割合、(3)再生可能エネルギーの割合	定量的	ギガジュール (GJ)、%
使用段階における燃費及び排出量	代替エネルギー関連商品の収益	定量的	金額
	製品の燃費と温室効果ガス (GHG) 排出量に対応するためのアプローチの説明と戦略の議論	ディスカッションと分析	N/a

49 Chemicals (化学)

温室効果ガスの排出量	グローバルでのスコープ1の総排出量、排出規制の対象となる割合	定量的	Metric tons (t) CO ₂ -e, Percentage (%)
	スコープ1の排出量を管理するための長期的・短期的な戦略または計画、排出量削減目標、およびそれらの目標に対するパフォーマンスの分析についての議論	ディスカッションと分析	N/a
エネルギー管理	(1)総消費電力量、(2)系統電力の割合、(3)再生可能エネルギーの割合、(4)自家発電エネルギーの合計 企業は、生産工程におけるエネルギー消費量の削減および/またはエネルギー効率の改善のための取り組みを議論しなければならない。	定量的	ギガジュール (GJ)、%
水管理	(1)総取水量、(2)総消費水量、ベースライン水ストレスが高い地域または非常に高い地域の割合	定量的	1000m ³ 、%
	水質許可、基準、および規制に関連したコンプライアンス違反の件数	定量的	件数
	水管理のリスクの説明と、それらのリスクを軽減するための戦略と実践の議論	ディスカッションと分析	N/a
使用時効率化のための製品設計	使用時の資源効率化を目的とした製品の収益	定量的	金額

50 Containers & Packaging (容器・包装)

温室効果ガスの排出量	グローバルでのスコープ1の総排出量、排出規制の対象となる割合	定量的	Metric tons (t) CO ₂ -e, Percentage (%)
	スコープ1の排出量を管理するための長期的・短期的な戦略または計画、排出量削減目標、およびそれらの目標に対するパフォーマンスの分析についての議論	ディスカッションと分析	N/a
エネルギー管理	(1)総消費電力量、(2)系統電力の割合、(3)再生可能エネルギーの割合、(4)自家発電エネルギーの総量	定量的	ギガジュール (GJ)、%
水管理	(1)総取水量、(2)総消費水量、ベースライン水ストレスが高い地域または非常に高い地域の割合	定量的	1000m ³ 、%
	水管理のリスクの説明と、それらのリスクを軽減するための戦略と実践の議論	ディスカッションと分析	N/a
	水質許可、基準、および規制に関連したコンプライアンス違反の件数	定量的	件数
廃棄物管理	有害廃棄物の発生量、リサイクル率 事業体は、有害廃棄物およびリサイクル有害廃棄物を定義するために使用された法的または規制上の枠組み、および適用される各枠組みに従って定義された廃棄物の量を開示しなければならない。	定量的	M/ts、%
サプライチェーンマネジメント	木質繊維の総調達量、認証取得源からの割合	定量的	M/ts、%
	アルミニウムの総購入量、認証を受けた供給源からの割合	定量的	Metric tons (t) CO ₂ -e, Percentage (%)

51 Electrical & Electronic Equipment (電気・電子機器)

エネルギー管理	(1)総エネルギー消費量、(2)系統電力の割合、(3)再生可能エネルギーの割合	定量的	ギガジュール (GJ)、%
製品ライフサイクル管理	売上高別にみた、IEC 62474 宣言可能物質6を含む製品の割合 開示には、IEC 62474 宣言可能な物質の使用を管理するためのアプローチに関する議論を含めること。	定量的	Percentage (%) by revenue
	ENERGY STAR®基準を満たす対象製品の割合 (売上高別)	定量的	Percentage (%) by revenue
	再生可能エネルギー関連、エネルギー効率化関連の収益	定量的	金額

52 Industrial Machinery & Goods (産業機械・資材)

エネルギー管理	(1)総エネルギー消費量、(2)系統電力の割合、(3)再生可能エネルギーの割合	定量的	ギガジュール (GJ)、%
製品使用時の燃費と排出量	中型・大型車の売上高加重型車両燃費	定量的	Gallons per 1,000 ton-miles
	非道路用機器の売上高加重平均燃費	定量的	Gallons per hour
	定置型発電機の売上高加重型燃費	定量的	Watts per gallon
	売上高で加重した排出量 (1)窒素酸化物(NOx)および(2)粒子状物質(PM)の売上高加重排出量 : (a)船舶用ディーゼルエンジン、(b)機関車用ディーゼルエンジン、(c)オンロード用中型・大型エンジン、(d)その他の非オンロード用ディーゼルエンジン 企業は、車両の燃費と排出ガスのリスクと機会を管理するための戦略とアプローチを議論しなければならない。	定量的	Grams per kilowatt-hour

9. Services (サービス)

53 Casinos & Gaming (カジノ・ゲーム)

エネルギー管理	(1)総エネルギー消費量、(2)系統電力の割合、(3)再生可能エネルギーの割合	定量的	ギガジュール (GJ)、%
---------	---	-----	---------------

54 Hotels & Lodging (ホテル・宿泊)

エネルギー管理	(1)総エネルギー消費量、(2)系統電力の割合、(3)再生可能エネルギーの割合	定量的	ギガジュール (GJ)、%
水管理	(1)総取水量、(2)総消費水量、ベースライン水ストレスが高い地域または非常に高い地域の割合	定量的	1000m ³ 、%
気候変動への適応	100年浸水区域に位置する宿泊施設数	定量的	件数

55 Leisure Facilities (レジャー施設)

エネルギー管理	(1)総エネルギー消費量、(2)系統電力の割合、(3)再生可能エネルギーの割合	定量的	ギガジュール (GJ)、%
---------	---	-----	---------------

10. Technology and communications (テクノロジー・通信)

56 Electronic Manufacturing Services & Original Design Manufacturing (EMS受託生産・ODM相手先ブランド生産)

水管理	(1)総取水量、(2)総消費水量、ベースライン水ストレスが高い地域または非常に高い地域の割合	定量的	1000m ³ 、%
製品ライフサイクル管理	使用済み製品および電子廃棄物の回収重量、リサイクル率	定量的	M/ts、%

57 Internet Media & Services (ネットメディア・サービス)

ハードウェアインフラの環境負荷	(1)総エネルギー消費量、(2)系統電力の割合、(3)再生可能エネルギーの割合	定量的	ギガジュール (GJ)、%
	(1)総取水量、(2)総消費水量、ベースライン水ストレスが高い地域または非常に高い地域の割合	定量的	1000m ³ 、%
	データセンターのニーズに対応した戦略的な計画に環境配慮を統合するための議論	ディスカッションと分析	N/a

58 Semiconductors (半導体)

温室効果ガスの排出量	(1)グローバルでのスコープ1の総排出量、(2)ペルフルオロカーボン化合物の総排出量	定量的	Metric tons (t) CO ₂ -e
	スコープ1の排出量を管理するための長期的・短期的な戦略または計画、排出量削減目標、およびそれらの目標に対するパフォーマンスの分析についての議論	ディスカッションと分析	N/a
製造業におけるエネルギー管理	(1)総エネルギー消費量、(2)系統電力の割合、(3)再生可能エネルギーの割合	定量的	ギガジュール (GJ)、%
水管理	(1)総取水量、(2)総消費水量、ベースライン水ストレスが高い地域または非常に高い地域の割合	定量的	1000m ³ 、%
製品ライフサイクル管理	売上高別に、国際電気標準会議 (IEC) が発行している国際規格IEC 62474の申告可能物質を含む製品の割合 開示には、これらの物質の使用を最小限に抑えるための取り組みについての議論を含むものとする。	定量的	%
	(1)サーバー、(2)デスクトップ、(3)ラップトップのシステムレベルでのプロセッサのエネルギー効率 (1)サーバー、(2)デスクトップ、(3)ラップトップのシステムレベルでのプロセッサのエネルギー効率 開示には、すべての製品カテゴリー (すなわち、サーバー、デスクトップ、ラップトップ、ワークステーション、ネットブック、タブレット、携帯電話、およびストレージ用のアプリケーション) におけるエネルギー効率に関して、新たに出現した使用パターンを設計するための取り組みについての議論が含まれるものとする。	定量的	製品の種類により様々

59 Software & IT Services (ソフトウェア開発・ITサービス)

ハードウェアインフラの環境負荷	(1)総エネルギー消費量、(2)系統電力の割合、(3)再生可能エネルギーの割合	定量的	ギガジュール (GJ),%
	(1)総取水量、(2)総消費水量、ベースライン水ストレスが高い地域または非常に高い地域の割合	定量的	1000m ³ , %
	データセンターのニーズに対応した戦略的な計画に環境配慮を統合するための議論	ディスカッションと分析	N/a
テクノロジーの混乱によるシステミックリスクの管理	(1)パフォーマンスの問題、(2)サービスの中断、(3)顧客のダウンタイムの合計数 開示には、各重要なパフォーマンス上の問題やサービスの中断、および将来の中断を防ぐために取られた是正措置の説明が含まれていなければならない。	定量的	件数、日数
	業務の中断に関連する事業継続リスクの説明	ディスカッションと分析	N/a

60 Telecommunication Services (通信事業)

事業活動の環境負荷	(1)総エネルギー消費量、(2)系統電力の割合、(3)再生可能エネルギーの割合	定量的	ギガジュール (GJ),%
テクノロジーの混乱によるシステミックリスクの管理	(1)システムの平均的な中断頻度及び(2)顧客の平均的な中断期間 開示には、各重要な性能上の問題またはサービスの中断の説明と、将来の中断を防ぐために取られた是正措置の説明が含まれなければならない。	定量的	Disruptions per customer, Hours per customer
	サービスの中断時に障害のないサービスを提供するためのシステムについての議論	ディスカッションと分析	N/a

61 Hardware (ハードウェア)

製品ライフサイクル管理	売上高別の製品のうち、国際電気標準会議 (IEC) が発行している国際規格IEC 62474の申告可能な物質を含む割合 開示は、IEC 62474 の宣言可能な物質の使用を管理するためのアプローチについての議論を含むものとする。	定量的	%
	「Electronic Product Environmental Assessment Tool (EPEAT : 電子製品環境アセスメントツール)」評価システムEPEAT登録または同等の要件を満たす対象製品の割合 (売上高別) 開示には、環境に重点を置いた原則を製品設計に組み入れるための取り組みについての議論を含めること。	定量的	%
	国際エネルギースタープログラムENERGY STAR®基準を満たしている対象製品の割合 (売上高別)	定量的	%
	使用済み製品および電子廃棄物の回収重量、リサイクル率	定量的	M/ts, %

11. Transportation (運輸)

62 Airlines (航空会社)

温室効果ガスの排出量	グローバルでのスコープ1の総排出量	定量的	Metric tons (t) CO ₂ -e
	スコープ1の排出量を管理するための長期的・短期的な戦略または計画、排出量削減目標、およびそれらの目標に対するパフォーマンスの分析についての議論	ディスカッションと分析	N/a
	(1)総燃料消費量、(2)代替燃料の割合、(3)持続可能な燃料の割合	定量的	ギガジュール (GJ)、%

63 Air Freight & Logistics (航空貨物・物流)

温室効果ガスの排出量	グローバルでのスコープ1の総排出量	定量的	Metric tons (t) CO ₂ -e
	スコープ1の排出量を管理するための長期的・短期的な戦略または計画、排出量削減目標、およびそれらの目標に対するパフォーマンスの分析についての議論	ディスカッションと分析	N/a
	(1)道路輸送における燃料消費量、(a)天然ガスと(b)再生可能エネルギーの割合、(2)航空輸送における燃料消費量、(a)代替燃料と(b)持続可能エネルギーの割合	定量的	ギガジュール (GJ)、%
サプライチェーンマネジメント	FMCSAの介入閾値を上回るBASICパーセンタイルを持つキャリアの割合	定量的	%
	輸送モードにおける温室効果ガス (GHG) の総排出量	定量的	Metric tons (t) CO ₂ -e per tonkilometer

注：赤線部分の欄は存在するが、空欄となっている。

64 Automobiles (自動車)

燃費と使用段階の排出量	地域別売上高加重平均乗客車両の燃費	定量的	Mpg, L/km, gCO ₂ /km, km/L
	ゼロ・エミッション車 (ZEV)、ハイブリッド車、プラグインハイブリッド車の販売台数	定量的	台数
	車両の燃費と排出ガスのリスクと機会を管理するための戦略の議論	ディスカッションと分析	N/a

65 Auto Parts (自動車部品)

エネルギー管理	(1)総消費電力量、(2)系統電力の割合、(3)再生可能エネルギーの割合	定量的	ギガジュール、%
燃費設計	燃費向上および/または排出ガス削減を目的とした製品からの収益	定量的	金額

66 Car Rental & Leasing (レンタカー・リース)

車両の燃費と利用率	レンタル日加重平均燃費 (地域別)	定量的	Mpg, L/km, gCO ₂ /km, km/L
	車両利用率	定量的	割合

67 Cruise Lines (旅客船)

温室効果ガスの排出量	グローバルでのスコープ1の総排出量	定量的	Metric tons (t) CO ₂ -e
	スコープ1の排出量を管理するための長期的・短期的な戦略または計画、排出量削減目標、およびそれらの目標に対するパフォーマンスの分析についての議論	ディスカッションと分析	N/a
	(1)総エネルギー消費量、(2)重油の割合、(3)陸上電源(OPS)の割合、(4)再生可能エネルギーの割合	定量的	ギガジュール(GJ)、%
	新造船の平均エネルギー効率設計指数(EEDI)	定量的	Grams of CO ₂ per ton-nautical mile

68 Marine Transportation (海上輸送)

温室効果ガスの排出量	グローバル総排出量 スコープ1の定量的排出量	定量的	Metric tons (t) CO ₂ -e
	スコープ1の排出量を管理するための長期的・短期的な戦略または計画、排出量削減目標、およびそれらの目標に対するパフォーマンスの分析についての議論	ディスカッションと分析	N/a
	(1)総エネルギー消費量、(2)重油の割合、(3)再生可能エネルギーの割合	定量的	ギガジュール(GJ)、%
	新造船の平均エネルギー効率設計指数(EEDI)	定量的	Grams of CO ₂ per ton-nautical mile

69 Rail Transportation (鉄道輸送)

温室効果ガスの排出量	グローバルでのスコープ1の総排出量	定量的	Metric tons (t) CO ₂ -e
	スコープ1の排出量を管理するための長期的・短期的な戦略または計画、排出量削減目標、およびそれらの目標に対するパフォーマンスの分析についての議論	ディスカッションと分析	N/a
	総燃料消費量、再生可能率	定量的	ギガジュール(GJ)、%

70 Road Transportation (道路輸送)

温室効果ガスの 排出量	グローバルでのスコープ1の総排出量	定量的	Metric tons (t) CO ₂ -e
	スコープ1の排出量を管理するための長期的・短期的な戦略または計画、排出量削減目標、およびそれらの目標に対するパフォーマンスの分析についての議論	ディスカッションと分析	N/a
	(1)総燃料消費量、(2)天然ガスの割合、(3)再生可能エネルギーの割合	定量的	ギガジュール (GJ)、%

注：「業界別開示要件 Appendix B (仮訳)」において「赤字で囲った注」は本要件のベースとなっているSASBスタンダードでは開示要件となっているが、本要件では空欄になっている部分を表す。

Disclaimer

- 本資料は研究員コラム、「非財務情報開示標準化の重要性」で紹介したIFRS財団が設立した国際サステナビリティ基準委員会 (ISSB) が公表した「業界別開示要件 (Appendix B)」等が産業別に標準化したマテリアルな事象であり、日本語での理解を助ける上のものであり、邦訳内容を保証するものではない。
- 参考にされる場合は、下記ウェブサイト等より入手される英語資料をオリジナルとし参照されたい。
<https://www.ifrs.org/content/dam/ifrs/groups/trwg/trwg-climate-related-disclosures-prototype.pdf>
- 本資料の一部又は全部の無断複製複写、無断転用等をご遠慮ください。

以上